

学校がある幸せ

まちに子ども達の声が響く

青春を謳歌する若者がつどう

どこにでもある幸せを守るため…



赤平高等学校 創立60周年

創立のとき

24

昭和二十四年五月一日、道立滝川女子高等学校赤平分校として始まり、同年十一月一日「赤平町立北海道赤平高等学校」として独立認可され、赤平高校の歴史がスタートしました。

現状の力

人生でいえば還暦にあたる60年という歴史を迎えた赤平高校。この間、産業構造の転換という大きな時代の壁を乗り越え、これまで優秀な人材を世に輩出し、地域に多大な貢献をしてきました。

平成17年度から1間口校となり、中・高教育推進委員会による存続への活動や生徒の活躍などで現在85名の在籍を確保していますが、北海道教育委員会の高校適正配置計画による地元からの進学率などの問題もあり、今後は、募集停止も考えられる苦しい状況にあります。

赤平高校生徒会長 高橋大輔君（2年）

このマチの火を消すことなく、若い力によって地域に元気を与え続ける役目を赤平高校は担っていると思います。私達は、六十年の歴史をもつ我が校に自信と誇りをもち、充実した高校生活を送り、赤平高校が末永く存続するための努力をしていきます。



赤高誕生の秘話

赤高開校前は、旧制の中学校、女学校とも滝川にしか無く、青少年教育においては随分と制約されていた。時間的、経済的にも多くの犠牲を強いられるような状態を何とか解決しよう、赤平の中で青少年を育てようという運動は、こうした不自由さの中から必然的にわきあがっていた。

昭和二十二年初代公選町長として選出された三上貫一町長は、教育に対する情熱が深く「労働者の町、赤平には子孫に残すべき何らの遺産も無い、青少年こそ我郷土の誇り得るべき唯一の財産である。」と発言し、青少年を育てる場として高校の必要性を強調し、急速にその運動が展開された。こうして全町民が一体となって「赤平に高校を」という願いがかなったのである。



初代町長
三上 貫一 氏



11月1日
豊里小学校開校70周年記念式典

心豊かにみんな仲良く光あふれる豊里校をテーマに式典が開催され、同窓生や地域の皆さんとともに70年の歩みを祝いました。式前日までの新型インフルエンザによる学校閉鎖を乗り越え、元気な子ども達の姿が輝きました。
全校生徒108名

開校のとき



豊里小学校

開校70周年



この度、赤平市の伝統ある学校が60周年、70周年を迎えました。赤平には地域の人々が、青少年を大事にする思いをもち学校をつくってきた歴史があります。しかし、地域に学校がある幸せは、あたりまえではない時代になりました。Anniversary of the founding of the school

少子化、小規模校の統廃合など様々な問題が地域で人を育む空間をゆがめています。小さな自治体では、地域の教育の場を守っていかねければ、将来、まちをつくる人材に影響する大きな問題になります。



赤間小学校

開校70周年

開校のとき

赤間校は、昭和十四年、北炭による赤間鉱・末広鉱の開鉱に伴い、従業員が多数来山し、その子孫の教育のために設置されました。校舎の建築中に烈風で倒壊し、工事が遅れたために、昭和十五年の開校時には、集会場などを間借りして、授業を開始しました。



七色の明日にきらめく赤間小をテーマに地域の人々や来賓が見守る中、式典が挙行されました。新型インフルエンザにより4年生が参加できませんでしたが、元気あふれる歌声は、会場全体を懐かしく温かい感動に包みました。
全校生徒226名

地域一体となつて

守るべきもの…今を生きる私たち市民は、将来の赤平市民から見ると先人になります。先人達が汗を流して創り守ってきたからこそ現在があるのです。歴史を振り返り、幾度と無く立ちちはだかる厳しい時代の壁を、みんなで支えあい乗り越えてきた赤平の力を今こそ発揮するときはです。未来に向けての礎となるよう将来を見据えての教育環境づくりを進め、市民ぐるみの支援体制を強化し学校を守っていかねばなりません。輝く未来を創造するまちに向けて、地域一体となつて学校を守っていく意識をもち、市民一人ひとりが未来を創る行動を実践していきましょう。



11月8日
赤間小学校開校70周年記念式典